

医療スタッフ紹介



神経精神科医長
岡本 勇香
おかもと ゆか

平成29年7月より当院で勤務しています。専門分野は、不眠症、うつ病、統合失調症、パニック障害、痴呆症（認知症）などの多様な心の病を診察しているほか、病状に応じて必要な方には薬物療法を行っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



整形外科医長
三上 悠
みかみ ゆう

平成29年10月より当院で勤務しています。整形外科一般、脊髄や末梢神経、筋、腱など、首から下の骨格・運動系の外傷や疾病を幅広く診察しています。また、腰椎椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症に対して、患者さんのお身体への負担軽減のため、内視鏡手術も行っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

患者サポート相談窓口のご案内

相談を
希望される
方は…

窓口●患者サポート相談窓口（北館1階）
受付日●月曜日～金曜日
（外来休診日・年末年始を除く。）
時間●午前8時30分から
午後5時15分まで

当院担当職員が相談内容に対応いたします。

※窓口以外にも、電話や投書箱、E-mailでもお受けいたします。
E-mail アドレス kanri@kamiichi-hosp.jp

相談
内容

- 診療内容について
- 転院・施設紹介について
- 医療費・福祉制度について
- 個人情報・情報開示について
- 医療安全について
- 主治医以外の医師の意見（セカンドオピニオン）
- ご意見・ご要望 その他

お問い合わせ先

かみいち総合病院
患者支援相談室
電話：076-472-1212（代表）



人間ドック・健康診断のご案内

現代社会における環境の変化や食生活の多様化により、自分では気づかないうちに進行してしまうがん・心臓病・脳卒中は、生活習慣の改善により発症を予防したり、進行を遅らせたりすることができます。皆さまが関心をもって定期的に健康診断を受けることが、これからの健康管理の重要なポイントといえます。当院では各専門医師による画像診断、ドック担当医による総合的な診察、保健師、看護師からの生活指導など、個別の状態に応じたアドバイスを行っています。皆さまの健康づくりのお手伝いとして人間ドックをご利用ください。

人間ドックは予約制となり、
随時受付しています。

ご予約は、当院南館1階「健診センター受付窓口」、または電話でもできます。オプション検査も多種用意しておりますので、ご予約時にお問い合わせください。



お問い合わせ
ご予約先

かみいち総合病院 健診センター
直通電話：076-472-5136

※お問合せ・ご予約は午後2時から午後4時までをお願いします。

広報かみいち総合病院

第42号 平成30年1月発行



編集・発行 かみいち総合病院 広報委員会
〒930-0391 富山県中新川郡上市町法音寺51番地
TEL.076-472-1212 FAX.076-472-1213
E-mail:kanri@kamiichi-hosp.jp
URL:http://www.kamiichi-hosp.jp/

新年のご挨拶

院長 戸島雅宏

新年あけましておめでとうございます。今年も皆さまにとって幸せな年になることをお祈りいたします。昨年、人生90年代の到来と後期高齢者の急増を見据えた「医療と介護制度の変革」として、「地域医療構想」+「地域包括ケアシステム」の構築が法律で示され、富山県版地域医療構想が公表されました。当院では地域型の病院として在宅医療を含めた地域包括ケアシステム具現化の一つとして、病院敷地内に在宅医療連携館を新築し、中新川郡訪問看護ステーションを同施設に移動し、当院家庭医療センターおよび地域医療連携室と協働しやすい体制を整えました。在宅医療に直接携わる自治体病院として、住民へ人生最終段階を考えておく啓蒙活動も合わせて行っています。経済成長に限りがある中、人の尊厳や生きる価値観を重視する施策こそ必要な時代になってきていると思います。医療界にも働き方改革が求められており、医療とは何かを改めて考えねばなりません。当院は、住民とともに歩む自治体病院、医療による街づくりに貢献することをめざして鋭意努力をつづける所存です。関係各位のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。むすびに、今年の秋に上市町で第44回富山県国保地域医療学会が開催される予定です。地域医療及び地域包括ケアの実践の方途を探求するとともに、関係者の相互理解と研鑽を図ることを目的とするもので、多くの方々のご参加をお願い申し上げます。

あなたのスキルを地域で活かしてみませんか？

嘱託・臨時職員募集



職種：

医師、看護師、助産師、
薬剤師、看護助手、管理栄養士

お問い合わせ先

電話：076-472-1212 担当/総務課 人事担当

医療安全管理室よりお知らせ

医療安全とは、医療事故を防止し、安全で質の高い医療を提供することができるよう、安全管理体制を確立するための部門です。病院が安全で安心な医療を提供するために必要な職員教育の実施、安全対策の推進を行うほか、医療安全に関する相談をお受けし皆様を支援しています。来院された方々に、「かみいち総合病院に来てよかった」と言ってもらえる病院を目指して全職員で取り組んでいます。

医療安全管理者

基本理念

「住民が安心して地域で暮らし続けるための医療の砦として私たちの病院が存在する」

基本方針

1. 地域医療の確保 住民のニーズに対応し、地域の医療機関、保健・福祉分野と連携した包括医療・ケアを提供する。
2. チーム医療の推進 医療従事者として研鑽に励み互いに助け合い、質の高い安全な医療を実践する。
3. 住民参加 地域に開かれた病院を目指し、住民との交流を深め町づくりに貢献する。
4. 思いやりの職員集団 一人ひとりが思いやりの精神をもって活動する。

認定看護師

認定看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める615時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格です。審査合格後は認定看護師としての活動と自己研鑽の実績を積み、5年ごとに資格を更新しています。かみいち総合病院では、10名の認定看護師がいます。

感染管理認定看護師



藤井 里美 (看護師長)



金盛 美由紀 (主任看護師)

患者さんやそのご家族、医療を提供する場で働くあらゆる人々を感染から守ることを目標に、院内ラウンドや院内感染対策研修会、新人教育など院内感染対策チーム (ICT) の一員として組織横断的に活動しています。

感染防止の重要性を理解し、組織全体として取り組む感染対策を目指しています。かみいち総合病院をご利用になる皆様、安全な環境で治療が受けられますよう効果的で実践可能な感染対策を実施していきます。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師



新林 正子
(主任看護師)

突然の発症に戸惑っている患者さんの思いに寄り添い、「患者さんがどうなりたいか」を常に念頭に置き、生活が再構築できるようケアしていきたいと考えています。脳卒中のリハビリは、いろんな職種でチームアプローチを行っているため、看護師がチームの中で患者さんの代弁者・擁護者になれるよう支援していきたいです。また、血圧についての生活相談や高次脳機能障害 (失語など)、麻痺の体についての相談も受けています。いつでもご相談ください。

認知症看護認定看護師



竹内 雅代
(主任看護師)

認知症の人の長期化する療養期間において、認知症の発症から終末期に至るさまざまな看護上の問題に向き合い、家族を含めた援助を企画し、実践しています。今その人らしく生きることを大切に、一人ひとりの願いが実現できるように、関わる支援者と共にサポートしています。言葉の大切さや、伝えることの大切さを感じながら、みんなが笑顔で過ごせる日々、笑顔で過ごせる地域を目指していきます。

手術看護認定看護師



柿森 祐司
(看護師)

手術は患者さんとそのご家族にとって、人生の中でも大きな出来事であり、希望や期待、不安を抱き手術に臨まれます。患者さんの安全と安心を保証し、手術が円滑に進行できるよう、さまざまな職種のスタッフと協力し、個別性を重視した、心のかもった手術看護を術前、術中、術後を通して提供したいと考えます。手術を終え、患者さんにご家族が「この病院で手術をして良かった。」と思っ

緩和ケア認定看護師



織田 明 (主任看護師)



水野 博美 (主任看護師)

緩和ケアとは、「がんと診断された時からの緩和ケア」と言われています。患者・家族さんの疾患や療養の悩みに対し、療養場所を問わずお話を伺わせていただきます。

患者さんの「人生観」や「希望」に共に寄り添い、家族さんの患者さんに対する思いを最後まで支えるお手伝いをさせていただきます。また患者・家族さんと信頼関係を構築し「良い人生を送ることができた」と言ってもらえるような緩和ケアを実践して行きたいです。

糖尿病看護認定看護師



濱野 初恵
(主任看護師)

糖尿病看護は、糖尿病と共に生きる患者さんとその御家族が、自身の身体を労わり重症化を予防するとともに「その人らしく生きる」を支える事を目標としています。

私の活動は、療養指導やフットケア、糖尿病教室などを通して、糖尿病治療の目的である患者さんが健康な人と変わらない日常生活の質が維持できるよう、合併症予防のための質の向上、普及に努めています。患者さんとの語りを通して、自分自身も研鑽していきたいと思っています。よろしくお願ひします。

摂食嚥下障害看護認定看護師



廣瀬 真由美
(主任看護師)

食べることは生命の維持だけでなく、食べることを通して楽しみや喜び、生きる活力へと繋がります。摂食・嚥下障害看護認定看護師は、安全で楽しい「食」を支援することが役割です。摂食・嚥下障害患者の看護ケアに関する相談や指導、院内・外の研修を実施し、スタッフの知識・技術の向上を図り、「食べたい」という気持ちに寄り添い、一人でも多くの患者さんが食の楽しみを継続でき、食事を通して「その人らしい生活」を支えていけるような看護を目指しています。

慢性呼吸器疾患看護認定看護師



大井 亜紀
(主任看護師)

慢性呼吸器疾患とは「気管支喘息」「COPD (肺気腫)」「間質性肺炎」といった、長く治療の継続が必要な病気です。そのため、治療を行いながら在宅で安定した時期を少しでも長く過ごせるよう、患者さんの希望に応じた生活様式の提案、酸素や呼吸機器の管理など支援を行っていきます。患者さん・家族が「住み慣れた自宅で安心した生活を送れている」と感じられる呼吸器ケアを提供して行きたいと思ひます。

住民が考える「いのちと死」～あなたはどこで最期を迎えたいですか～ かみいちナイトスクールで開催

「ナイトスクール」とは…

病院が地区公民館に向向き、地域の医療のあり方を住民と病院が直接話し合える場が必要と考え、H23年から始めたもの。



グループワークの導入には町内の小学6年生に講義を行った

「私たちの命と死を考える」について紹介し、子供たちの意見を伝えました。その後、病院スタッフがファシリテーターとして

参加するグループワークを行い住民の意見をまとめました。住民の感想の中に「生と死はセットだと感じた」という意見がありましたが、生きることと死ぬことを切り離して考えるのではなく、セットになった生と死、すなわち「死生観」を住民が考えることにつながったのではないかと考えました。

アルフォンス・デーケンには死への準備教育を「元気な時から『死』を見つめることで、生を最期までどう大切に生き抜くかを考える教育」であり、「日本では『死』の準備教育はこれからの課題である」と述べています。

「ナイトスクール」でのグループワークは、今後も継続して実施していく予定であり、住民が望む「終い方」を実現していくために回を重ねていくことが重要であると考えます。

当院ではH21年度に家庭医療センターを設立し、訪問診療を行ってきました。H23年度からは在宅で

ナイトスクールでのグループワークの様子

の看取りにも取り組み、これまでに147名の方の看取りをしました。

ご遺族から「家で看取ることができてよかった」「地域の方に在宅で看取ることの大切さを伝えたい」「もっと多くの住民に伝えていったらどうか」との意見が聞かれました。しかし、ただ伝えるだけでは情報の押し付けになってしまうことになりかねません。まずは「終い方」(北陸の一部の地方では、人が亡くなることを「しもうていく」と表現する。「終わらせていく」(主体的な意思をもって)の意味があります。)についての考えを住民に問いかけることから始めたいと考えました。

国が2012年に実施した調査では在宅死希望が54.6%ですが、翌年の国民意識調査で、人生の終わりに医療をどう受けたいか、半数以上の方が家族と話し合ったことがないという結果が出ています。年齢や家族構成により「最期を迎える場所」の意向が左右されることはこれまでの調査で明らかにされていますが、「病院か自宅か」を選ぶことが重要なのではなく、自分がどこで、どのように息を引き取りたいか、「終い方」を考えること、言葉にすること、家庭で死の話をする事が、住民が望む死を迎えるために大切なことであると感じています。



第6回かみいち総合病院 病院祭を開催しました

11月5日(日)、「根ぞう地域医療、つなごう未来」をメインテーマとし、第6回病院祭を開催しました。

かみいち総合病院1階中央ホールをメインステージとし、小杉爆笑劇団による寸劇(認知症編)や上市中学校吹奏楽部、糖尿病センター(ガッテン!糖尿病)、すだち(当院職員によるミニコンサート)を行ったほか、小中学生の応募による「病院祭ポスター展」の表彰式を行いました。

この他、2階ホスピタルストリートを中心とした特設ブースでは、各種測定や栄養相談、お薬健康相談、ちびっこ白衣試着撮影会等が行われました。

また、恒例の医療安全パネルの展示では、来院された皆さんに採点していただきました。



第6回地域住民公開講座 糖尿病よろづゼミナール inかみいち

第6回糖尿病よろづゼミナールを11月12日(日)につるぎふれあい館で開催しました。浦風副院長による基調講演、小橋先生・中曽根先生による「クイズで学ぼう糖尿病」が催されました。

また、富山大学付属病院第二内科助教の小池先生による特別講演もありました。

